

# 麻疹

麻疹ウイルスによる感染症です。  
空気感染や飛沫感染など様々な感染経路をとり、非常に感染力が強く、手洗いやマスクでは防げません。  
免疫を持たない人にうつす割合は感染者 1 人当たり約 12～14 人。子どもだけでなく大人も重症になります。  
昔はこの病気で命を落とす子どもは多く「7 歳までは神の子」「子どもの数を数えるのははしかが終わってから」という昔の言葉が伝えられています。

## どんな症状？



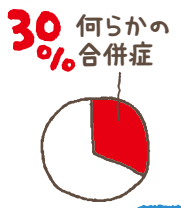
潜伏期間は 10～12 日。最初は鼻水や咳、発熱などの**風邪に似た症状**が出ます（最初は診断が難しいですが、実はこの時期の感染力が最も強いです）。  
次いで口の中に**コプリック斑**という白く細かい斑点が一時的に出現し、その後特有の**赤い発疹**が全身に出ます（頭や顔から先に出ます）。  
**熱は 7～10 日**ほど続き、しんどいため**入院すること**も多いです。  
その後発疹は色素沈着を残して消えていきます。  
症状が回復しても、しばらく免疫力が低下して他の感染症にもかかりやすく、**しっかり回復するまで 1 か月**くらいかかります。  
熱が下がって 3 日経つまでは登園登校はできません。

治療法  
はありません

治療は？

残念ながら**治療法はなく**、  
解熱剤や点滴などの対症療法が中心です。  
合併症を起こした際に抗菌薬の使用が必要です。

合併症は？

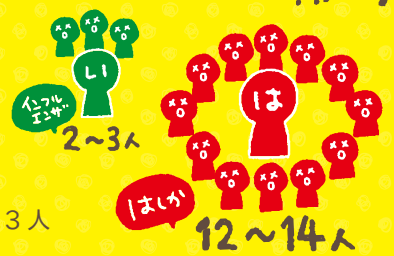


30%の患者さんに何らかの合併症がでます。  
その**半数は肺炎**です。  
死因で多いのは肺炎と脳炎です。  
先進国でもかかると**1000人に1人は亡くなり**ます（インフルエンザは 10000 人に 1 人）。  
インフルエンザの 10 倍の死亡率！  
（日本では 2000 年前後の流行の際、20～30 名/年の死亡。）

脳 炎	1000 例に 1 例。思春期以降の死因として多い。6 割は回復するが 25% は後遺症、致死率 15%。
中耳炎	5～15% の頻度。最も頻度が多い合併症の一つ。
肺 炎	乳児の死亡例の 6 割は肺炎。
亜急性硬化性全脳炎 (SSPE)	10 万例に 1 例。麻疹にかかった 5～10 年後くらいに発症し、知的障害やけいれんを合併する。治療法はなく、とても予後の悪い難病。

## 感染力强

感染力が強く、  
免疫を持たない人に  
うつす割合は  
感染者 1 人当たり  
約 12～14 人。  
※インフルエンザは 2～3 人



手洗いやマスク  
では防げません。



## 麻疹かも?! と思った時は

発熱や発疹等の症状で  
**麻疹かも、**と思った場合には  
**病院受診が必要**ですが、受診前に  
必ず病院に**電話**をしてください。

### 1 病院にまず電話

あらかじめ病院に  
**麻疹の可能性を考えている  
ことを電話で伝える。**

いきなり  
行かない

### 2 自家用車で病院を受診

- 公共交通機関は使用しない。
- 自家用車がなければワクチンを 2 回接種済みの方や中高年の方に送迎してもらって受診。
- 途中で寄り道をしない。

寄り道をしない

公共交通機関を使わない

潜伏期間 10～12日 改善まで 1ヶ月程度 登園まで 熱が下がって3日

参考資料：国立感染症研究所 HP (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/518-measles.html>) 高山義浩：麻疹（はしか）を理解し、身を守るための 21 の質問（Huffpost 2018 年 5 月 10 日更新） 中野貴司：麻疹排除運動の現状と麻疹風疹ワクチン，日本小児科医会報 (49),44-49,2015

# 唯一の予防は ワクチン接種です。

## 接種回数2回・免疫がつくまで約2週間

定期接種では1歳と小学校入学前。免疫がつくまで約2週間。  
接種できるのは医療機関(病院・クリニック)。  
小児科もクリニックによっては大人にも接種してくれるところも。

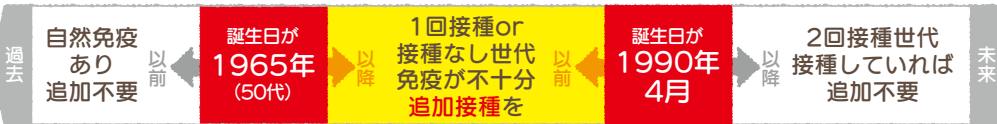
- 接種後2か月は避妊が必要です。
- ワクチンの種類は、麻疹単独ワクチンとMRワクチン(麻疹風疹混合)があります。単独ワクチンは不足しており、風疹の予防もできることから麻疹風疹混合ワクチンを接種しましょう。



## 定期接種以外で予防接種すべき人は?

- 麻疹の予防接種を過去未接種もしくは1回しか接種されていない50歳未満
- 海外渡航予定の方(行先は問いません)

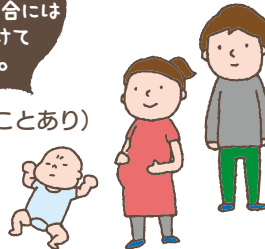
2回接種で十分な免疫が付きます(97~99%)。  
50歳以上は流行した時代で多くの方には自然免疫があります。  
また、アジア、アフリカだけでなくヨーロッパでも麻疹は流行しており、どこであれ海外渡航する際には麻疹が2回接種されていることを確認し、足りなければ追加してから渡航してください。



## ワクチン接種できない方

- 免疫不全などの病気の方
- 1歳未満の乳児(自治体によっては流行時には公費で接種できることあり)
- 妊娠中の方(2回接種が未完了な場合、妊娠中は接種不可)

これらの方は、流行がある場合には人ごみを避けてください。



## ワクチンの副反応

初回接種後に発熱が20~30%、発疹が10%出ますが、通常の麻疹と比べると症状ははるかに軽く済みます。

## よくある質問

Q 1歳未満の乳児は接種できませんか?

A 生後6か月未満は母親の抗体が乳児の体に残っていて、ワクチンを接種しても中和されてしまい免疫が付きませんので接種しません。  
生後6か月以降1歳未満は、専門家によってさまざまな意見があり定まっていません。流行があった場合には公費負担ですめることもあります。  
1歳未満で接種した場合でも、1歳を過ぎたら必ず定期接種を行います。  
乳児のご両親は1回接種世代の可能性が高く、ご両親自身がしっかり追加接種して乳児に感染させないことが大切です。

6ヶ月未満は接種しません



Q 1~6歳で就学前の2回目をまだ接種しておらず、1回しか接種していない幼児はどうすればいいですか?

A 基本的には1回接種が済んでいるので免疫で守られていますが、保護者をご希望であれば、この期間に任意接種(自己負担)で2回目を接種することは可能です。  
接種した場合も必ず就学前の定期接種は行ってください。  
定期接種対象者や2回接種完了していない成人と比べると優先順位は低くなります。

1歳未満で受けても1歳を過ぎたら再度定期接種を!!



Q 授乳中ですが、ワクチンを接種しても子どもに影響はありませんか?

A 授乳中も接種可能です。母乳中にわずかにワクチンの成分が検出されることもありますが、それによる赤ちゃんへの影響はありません。



Q 子どもの頃に麻疹にかかったと言われましたが、1回接種世代です。追加した方がよいですか?

A 確実に麻疹にかかったのであれば、生涯にわたる免疫があるため追加接種は不要です。ただ麻疹と思いついでいた病気が発熱や発疹が出る他の病気(風疹や川崎病など)と混同されていることもあります。確実と言い切れないのであれば1回追加接種をお勧めします。もし免疫がすでにある状態で追加接種しても問題はありません。

Q 追加接種の前に抗体検査を受けた方がよいですか?

A 希望があれば医療機関で抗体検査を受けられます。保険適用外のため医療機関によって値段が異なりますので、事前に確認を。ただし既に免疫があったからと言って追加接種で困ることはありません。特に1回接種世代は子育てで忙しく、なかなか病院を複数回受診することも難しいので、検査せずに追加接種するのも一つの方法と考えています。

